



ニラはきわめて丈夫な宿根性野菜で、一度植えると毎年、春から秋まで収穫できます。庭や菜園の縁どりなどに植えると、たいへん便利です。夏には花も楽しめます。タネをまいてもよいのですが、春に市販される株を植えるのが手軽です。

品種

品種はあまりありませんが、すぐれた品種として、春の芽立ち

が早く、分株が旺盛な「グリーンベルト」、花ニラでは「テンダーポール」があります。

栽培ポイント

日当たりのよい場所を選んで作ります。どんな土でもよく育ちますが、株が古くなると収量や品質が悪くなります。また、乾燥には強く、過湿地や酸性土には弱いので、苦土石灰を施して土の酸度を矯正し、水はけの悪い所では高畝にして植えるようにします。

作り方には、春、秋に株分けをする方法とタネをまく方法とがあります。株分けは簡単ですが、タネまきをする場合は、秋よりも春まきのほうが無難です。育苗期間を90日ぐらいとし、7月上旬までに植えつけます。9～10月になると根株が太りますが、初年度は追肥、中耕、土寄せを行って根株の養成をはかり、収穫は控えます。2年目以降は収穫できますが、夏の間にとう立ちをしますので、花茎は早めにつみとり、株の消耗を防ぎます。4～5年後に株分けを行って、苗を更新し、株の若返りをさせます。

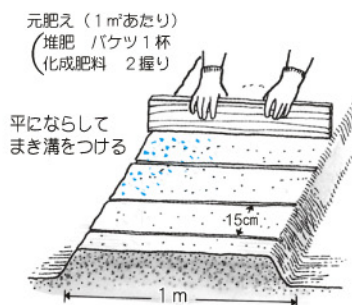
収穫は、植えつけ2年目より、葉が20cmぐらい伸びた葉を株元から切りとります。花ニラはつぼみを包んでいる薄皮が開く前に収穫します。

栄養

ネギ以上に栄養価が高く、特にカロチンが豊富で、他のビタミン類やカルシウムも多く含んでいます。消化や血行をよくする効果もあります。

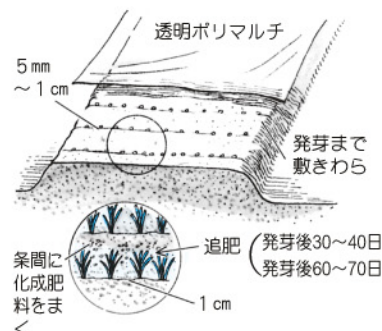
1 苗床の準備

苗床には、1㎡あたり2握りの苦土石灰を施して、よく耕しておく。1週間後に元肥を施し、土をよくまぜて、1m幅のまき床を作る。



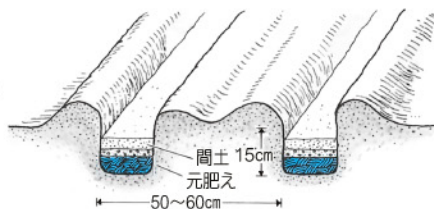
2 タネまき

タネは厚まきにならないよう、溝に0.5～1cm間隔にまき、5mmほど覆土して、水やりする。発芽まで敷きわらをし、その上から透明ポリシートをかけて地温を高め乾燥を防ぐ。10～14日で発芽。発芽後は1cm間隔に間引き、2回ぐらい追肥し、中耕する。



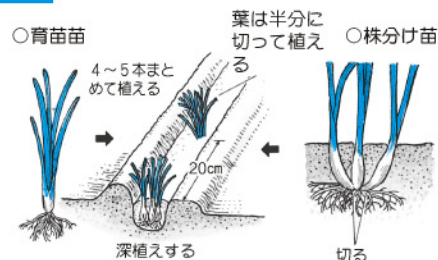
3 畑の準備

酸性に弱いので、植えつけの2週間前に1㎡あたり2握りの苦土石灰をまいて、耕しておき、その1週間後に、苗床よりも堆肥を2倍くらい多くした元肥を施して、畝作りをする。



4 苗の植えつけ

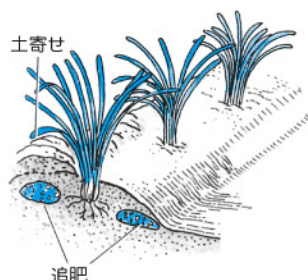
育苗苗は6月中～下旬から7月にかけて、4～5本ずつまとめて、深めに植える。株分け苗は、春は3月中～下旬、秋は9月中旬ごろに株を掘り上げて植える。



5 追肥・土寄せ

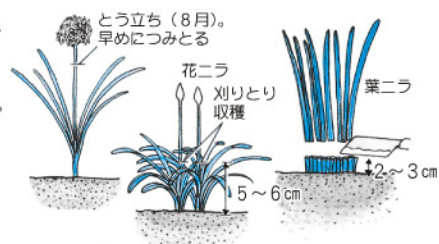
活着後（植えつけ後20日ぐらい）に土寄せ。9月下旬、株元に化成肥料をばらまき、土寄せする。

2年目以降は、一度に多量の追肥は控え、葉を刈り取って収穫したあと、お礼肥を施す。



6 とう立ちと収穫

花を楽しんでもよいが、早めにつみとらないと株が弱る。花ニラは開かないうちに切り取って収穫。葉ニラは20cm丈で順次刈り取って収穫する。9月以降は収穫を打ち切り、株の養成につとめる。



主な病害虫
◆病気 ベと病、白斑病
◆害虫 アブラムシ、ネギコガ